

## 区の平和事業

区は、昭和61年3月に平和都市宣言を行いました(1面)。この宣言の趣旨を広く区民の皆さんに知っていただくために、平和展や親と子の広島・長崎への平和派遣、小・中学生の平和のポスター展、映画会や図書展示など、平和の尊さを伝える事業を推進してきました。

20年度からは、平和コンサートの実施や映画会を増やすなど、より多くの方に平和について考えていただけるよう、事業を拡大して実施しています。

※9月27日(午後1時から、平和派遣報告会と映画「夕嵐の街 桜の国」上映会を四谷区民ホール(内藤町87)で開催する予定です。詳しくは、後日、「広報しんじゅく」でお知らせします。

## 被爆地に平和派遣

平和の尊さについての知識を深め、平和への意識を高めていただくため、次代を担う子どもたちと保護者(7組14名)を、広島と長崎へ隔年で派遣しています。

今年、8月8日～10日に長崎を訪れ、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典や青少年ピースフォーラムに参加したほか、原爆資料館や平和祈念像、爆心地などを見学しました。

今年の派遣者は次の皆さんです。

- ▶有賀本巳さん・達哉さん(落合第三小学校6年)
- ▶加藤美樹子さん・明日香さん(西早稲田中学校2年)
- ▶鈴木みゆきさん・いとなさん(牛込第二中学校3年)
- ▶竹内麻里さん・翔さん(早稲田小学校4年)
- ▶糠信季代子さん・泰州さん(柏木小学校5年)
- ▶三上克枝さん・雄司さん(落合中学校3年)
- ▶山村利枝さん・芳枝さん(牛込第一中学校1年)

## 昭和館で戦争の歴史を学んでみませんか

戦中・戦後(昭和10年～30年ころ)の生活についての歴史的資料・情報を収集し、保存・展示している国の施設です。次世代の方にその時代を知っていただくため、さまざまな資料を展示しています。

【所在地】千代田区九段南1-6-1(東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車、4番出口から徒歩1分)

【問合せ】昭和館☎(3222)2577へ。同館ホームページ(<http://www.showakan.go.jp>)でもご案内しています。

## 新宿区内での空襲の様子

昭和17年から20年にかけて、新宿区内も大きな被害を受けました。空襲の悲惨さを伝える本、空襲を体験した文集などで、戦争当時の

新宿区内の様子が分かります。平和の大切さを伝えるために、空襲の様子を文献から抜粋して紹介します。

### 日本本土初空襲

昭和17年4月18日、日本で初めての空襲により早稲田鶴巻町が被害を受けました。

初めは局所的な被害でしたが、昭和20年4月・5月の空襲による被害は特に甚大で、区内のほとんどが焼失し、多くの死傷者を出しました。

その様子が綴られた本などから、当時の様子が分かります。

※引用文献:「米軍が記録した日本空襲」(平塚征緒著・草思社発行)、新宿区平和都市宣言5周年記念誌「語りつぐ平和への願い」(新宿区発行)

### 新宿に被害〜ドゥリットル作戦〜

昭和17年4月18日、空母ホーネットを推進した中型爆撃機B25によって、日本はアメリカから初の空襲を受けました。この作戦は、米国民の戦意高揚のために立案され、責任者に陸軍中佐ジェームズ・H・ドゥリットルが任命されたので、この名がつけられました。

空母を飛び立った16機のうち2機が区内の早稲田地区・淀橋地区を空襲し、焼夷弾を投下しました。その際、早稲田中学校の生徒1名が直撃を受けて亡くなりました。また、数か所で火災が発生しました。

東京空襲記録(三省堂1982年3月10日東京空襲を記録する会編「東京大空襲の記録」)によれば、同日の被害は被災家屋25戸、負傷者31名、死者39名となっています。

### 超長距離爆撃機B29

昭和19年6月16日、約50機の米軍爆撃機編隊が北九州上空に到達しました。この爆撃機は「スーパーフォートレス(超空の要塞)」と呼ばれる、開発されたばかりのB29爆撃機でした。

八幡製鉄所に対する空襲で始まったB29による攻撃は、昭和20年8月15日の終戦の日まで、1

年3か月にわたって続けられ、日本の都市と主要産業は壊滅しました。

### 爆撃方法の変ぼう〜無差別爆撃へ〜

爆撃方法も、重要工業施設を選んで攻撃する「精密爆撃」から、都市そのものを目標にする「無差別爆撃」へと変ぼうしました。

東京大空襲(昭和20年3月10日未明)からわずか10日間で、名古屋・大阪・神戸に対する夜間無差別爆撃が行われ、同年6月半ばまでに、横浜・川崎を加えた6大工業都市が壊滅しました。その後、終戦までに、人口の多い順に64都市が焼き払われました。

### B29による被害

東京上空にB29が姿を現したのは昭和19年11月1日のことでした。空襲の事前調査として写真撮影をするためでした。

同月24日、B29による東京への初攻撃は中島飛行機武蔵製作所(現在の武蔵野市)に対するものでした。

その後、東京は度重なる空襲に見舞われ、昭和20年2月25日には四谷区坂町・本塩町が焼失、牛込区の陸軍省内でも火災が発生しました。

昭和20年3月10日未明の東京大空襲では、じゆうたん爆撃(爆撃機を二列縦隊で飛行させ、さまざま爆弾を投下する爆撃方法)により一夜にして下町一帯が焦土と化しました。この空襲は、原子爆弾による被害を除けば、我が国における空襲のうち最大のもので、焼失家屋約27万戸、死者推定10万人、負傷者4万人を出しました。この日、牛込区内では市谷加賀町一丁目、納戸町、砂土原町一丁目などが焼失しました。

さらに、3月31日〜4月13日にかけて、四谷・牛込・淀橋の3区が甚大な被害を受け、5月24日・25日の空襲で、区内のほとんどが焼き尽くされました。区内の被害は、5月29日の牛込区河田町・富久町への空襲によるものが最後となりました。

## 空襲で失われた大久保のまち

昭和20年4月13日の空襲で大久保・戸山・淀橋第一・四谷第一・戸塚第二・戸塚第三・落合第二の各国民学校等は焼失、大久保のまちも焼け野原になりました。

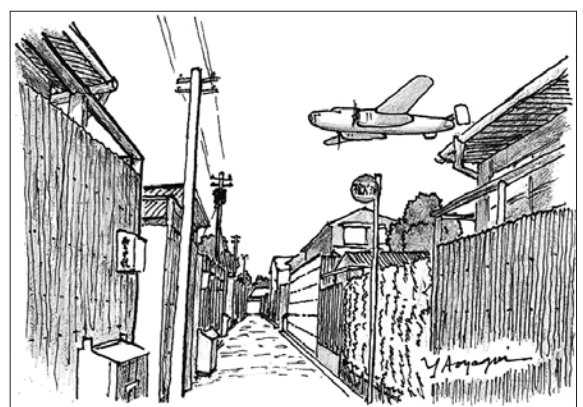
「風、光りし大久保少国民の見たある町」という文集があります。空襲で失われたまちの記憶を後輩たちに残したいという思いから、淀橋区立大久保国民学校の卒業生の皆さん10人ほどが、戦前の大久保の姿を綴った手作りの文集です。

開戦からわずか4か月、新宿上空に突如姿を現したB25の空襲の様子を、当時、国民学校に通っていた青柳安彦さん(代表編集者)の文章から抜粋しました。

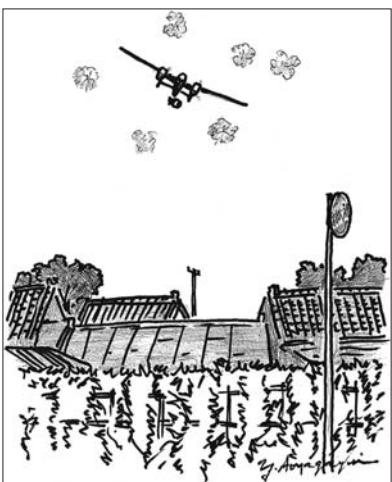
### ドゥリットル空襲の記憶

その時、わたしは自宅の前の、南北に通じる道を一人で歩いていました。

左右の家と垣根に挟まれた狭い前方の空を、東から西へ、見慣れない飛行機がスーッと横切ったと思ったら、同時にボン、ボンという、これも聞き慣れない音がしました。1機目は何か白昼夢をみているみたいに音もなくスーッと通り過ぎたように感じました。エンジンの音もはつきり耳に残っていません。ボンボンという高射砲の音も最初は何の音だかわかりませんでした。でも、すぐに何か



1機目は音もなく、スーッと通り過ぎたように思えた



2機目はやや南東から回り込むように進入。上部に太い一本の白線が入った真っ黒な爆弾(焼夷弾)をポロリと落とした

その飛行機は昼下りの西の空の逆光線の中に、影になって見えませんでした。敵機は高度を上げながら、西か西北西に去って行きました。戸山ヶ原の西端、陸軍科学研究所の見える方角だったと思います。

「風、光りし大久保」大久保の歴史を語る会編(非売品)から抜粋(記憶スケッチも青柳さん)